



Cyber Solutions Inc.

導入事例： 00200

NetSkateKoban®

導入事例：国立大学法人 宮城教育大学 情報処理センター 様



NetSkateKoban.によって、学内ネットワークを安心して運用できるようになりました。



導入した製品

- LAN、無線LANへの不正端末接続を阻止する「NetSkateKoban.」
- ネットワークの利用状況を監視できる「CpMonitor SMART」
- トラフィック監視などのネットワーク管理機能を持つ「NMS モジュール」

宮城教育大学では、大学の広いキャンパスのみならず、付属学校や学生寮にまで、無線LANを張り巡らせ、庭の隅々までネットにつながる環境を実現した。IDを持つ者なら、誰でも、いつでも、好きな場所からアクセスできる環境は利用者側には天国だが、管理者側にとっては…。無線LAN導入と同時に「NetSkateKoban」を導入した宮城教育大学情報処理センターの鶴川義弘教授と、助手の福井恵子氏に、導入の経緯と導入効果について伺った。

■ ミスやトラブルは常に起こるもの

— 大学のネットワークではどのような問題が起こるのでしょうか？

当大学には留学生もおり、文化の違いなどから、いろいろな問題が発生します。

たとえば、あるとき海外から「そちらの大学が、違法コピーのテレビ番組を発信している」と指摘されました。調べていったところ、そこにはある国からの留学生がいました。

彼らは著作権意識が日本とは全く違い、テレビ番組はネットで共有ソフトを介して見るのが一般的です。視聴した者が次に発信するサーバ側になる仕組みなので、大学のネットワークから視聴されると、大学が違法コピーの発信元になってしまいます。

留学生に著作権侵害の違法な行為であると説明しても、なかなか理解してもらえず、二度三度と同じことが繰り返されました。また、一人に理解させても、他の学生が同じ問題を起こします。

その他にも、ネットの設定ミスでIPアドレスの競合が起こったり、プログラムのミスでサーバに負荷がかかったり…さまざまなトラブルが起こります。

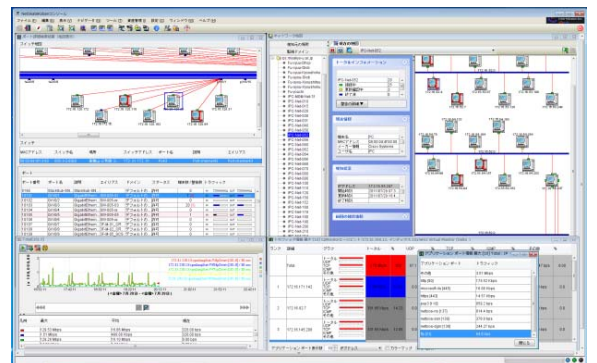
■ 導入の第一印象は、とにかく便利で安心！

— トラブル対応のために、ネットワーク監視システムの導入を検討されたのですか？

実は偶然から導入に至りました。以前からの知り合いだったサイバー・ソリューションズの社員と雑談しているときに、悩みを話したら、「NetSkateKoban」で解決できると聞きました。そこで、しばらく「NetSkateKoban」を試しに使わせてもらいました。

— 「NetSkateKoban」を試してみた印象はいかがでしたか？

とにかく便利で、安心できました。大学キャンパス全体に無線LANを張り巡らせた際に、正式に「NetSkateKoban」を導入しましたが、そもそも「NetSkateKoban」がなければ、安心して、無線LANを導入することはできなかったでしょう。



〈NetSkateKoban®のコンソール画面〉

■ **トラブル対応も簡単、スピーディに**

— 導入前後の、ネットワーク運用方法を教えてください

導入前も現在も、先生方にはパソコンを購入したときに接続申請書を出してもらい、紙ベースで管理しています。パソコン買い替えの際は申告してもらっていますが、全員がきちんと申告してくれているわけではありません。そのため、申請されていないパソコンがしばしば接続されています。導入後は、学生も含めて、自動登録の仕組みを作りました。接続のためのIDとメールアドレスなどと、MACアドレスを結びつけることで、機器が自動登録される仕組みです。これにより、運用は圧倒的に簡単になりました。

— 導入によって、どのようなことが見えてきましたか？

パソコンの接続に関して、紙ベースの申請も併用しているため、申請書と異なる機器を使っているケースも見えてきて、いま、申請と実態とどちらを優先させるか悩んでいるところ



また「CpMonitor SMART」を導入したことにより、ネットワークトラフィックのヘビーユーザーの存在や現状のネットワークの負荷など、さまざまな状況が可視化されたことに感激しています。

くようにしました。アラートメールを見て、「NetSkateKoban」で調べると、管理画面でその接続の利用者がわかります。問題のある接続である可能性が高いと判断したら、その場で通信を遮断し注意しています。

早い段階でトラブルの芽を見つけることができるようになりましたし、足を運ばなくても対応できることが増えて、圧倒的に楽になりました。

■ **伸び伸びとネットワークを活用できる環境**

— トラブルを減らすために、ネットワーク接続を制限しようとは思いませんか？

制限しようとは思いません。いま教師にはICT活用能力が求められています。未来の教育者たちたる当校の学生たちには十分にネットワークを活用してもらいたいと思います。無線LANも「こんなところまで？」と言われながら、隅のほうから引いて行きました。



いまや庭の隅々までネットワークが使えます。スマートフォンなども含めた機器のネットワーク接続を「NetSkateKoban」によって可視化できるようになったので、自由に接続してもらえるネットワークを、安心して運用管理できるようになりました。その結果、行える教育も広がりました。



無線LANコントローラと連携することで、誰がどこで利用しているか、有線無線を問わず簡単に把握でき、トラブル時にも素早く対応できるようになった。

〈QRコード付きの看板〉

たとえば、数十人の学生を連れ歩いて、庭で環境教育を行うことがありますが、後ろのほうにまでは声が届きません。しかし、キャンパスの随所にQRコード付きの看板を立ててあるので、その場で各自に携帯電話などでQRコードを読み取ってもらうことで、それぞれの場所についての情報を伝えることができています。

どこでも、いつでもネットワークにアクセスできる環境があるから、できる教育があると思います。

国立大学法人 宮城教育大学

東北で唯一の教育大学。大学の学生数は約1600名、職員数約200名。それに加えて、男子、女子それぞれの寮をはじめ、職員宿舎、付属の幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校などが、車で数十分の距離の青葉山地区と上杉地区、水の森地区に点在。大学のキャンパス全面積約27万㎡に約五十の建物がある。情報処理センターでは、その全域のネット環境の環境整備や運用から、未来の教員たる学生たちへのICT教育まで担当している。

※ 取材日時 2011年7月

	導入前	導入後
トラブル発見方法	外部などからの指摘で知る	アラートメールで危険の芽を発見
トラブルへの対応	SEに依頼して、おおよその接続場所を調べ、その場へ足を運んで問題を起こしている者を探す	接続者氏名までわかるので、危険度を推定、危険度が高ければ、即時遮断。低ければ観察。
接続パソコン登録	接続申請書を出してもらい、手作業で登録	ログインIDなどを元に、接続者を自動登録

さらに節電が求められている今年は、電源切り忘れのパソコンやプリンタなどの機器を見つけることもできるので、助かっています。

接続履歴表示機能によって、電源の切り忘れの機器が手に取るように分かるようになった。

〈接続履歴画面〉

— トラブルへの対応は、導入後、どのように変わりましたか？

Firewallに導入した他のシステムとも連携させて、ファイル共有ソフトが使用するバケットの特徴など、十数種類のパターンを登録して、そのパターンが現れたら、アラートメールが届



株式会社サイバー・ソリューションズ

Cyber Solutions Inc.

〒989-3204 仙台市青葉区南吉成6-6-3 ICRビル

TEL 022-303-4012 FAX 022-303-4015 e-mail netskate-sales@cysol.co.jp

NetSkate 事業部